

教科	芸術	科目	音楽 I	履修学年	1年
単位数	2	科・系	全学科	担当者	

教科・科目 の目標	音楽活動を通じて、感性を豊かにし、自己表現力を身につける。 また、グループ発表を経験することで、ハーモニーを作る力と響きを受 受する能力を育成する。
使用教科書 ・教材等	高校音楽 I MOUSA I
評価の観点 と その方法	1, 評価の方法 ①授業時の観察で評価 ②実技テスト ③定期考査 2, 評価の観点 ①技術力 ②表現力 ③授業に取り組む姿勢
学習方法・ 学習形態	〈歌唱〉クラス全体で活動し、パートわけを行い、ハーモニー作りを行 う。 〈器楽〉聴力、読譜力、表現力の順に主に個人練習を行い、技術習 得を目指す。 〈鑑賞〉文化や特色などを把握し、音楽的視野を広げるためのビデオ鑑 賞を行う。
留意点 その他	1, 授業について ①仲間で助け合い、授業に積極的に参加する態度を見せる。 ②ギターなどの備品を使用する際は、大切にすること。 2, 定期考査 実技試験 筆記試験

令和5年度学習進度予定表

期	月	学 習 項 目	学 習 内 容	到 達 目 標
一 学 期	4月	歌唱	校歌 ポピュラー音楽・ミュージカル	校歌は全員暗譜 二声以上のハーモニー作り をする。
	5月	器楽 キーボード 打楽器	・キーボードを用い、階名や指 使いなど基本的な演奏方 法を習得する。 ・打楽器の演奏方法、リズム について学ぶ	協力し合い、1つの曲 を完成させる。
	6月	歌唱	・グループ作りをして、選 曲 ・パート決めなど、生 徒自ら行う。	音階の理解と、文化につ いての知識を深める。
	7月		日本の歌、日本の音階や文化 もまじえて学習する。	
夏季 休業				
二 学 期	9月	器楽 (ギター)	・ギターの各部名称や特徴 を知る。	名称とその部位の役割 を把握する。
	10月		・スケールを習得すること で基礎的技術を身につける。	正確な姿勢と指使いで、 1オクターブ半のスケール を弾くことができる。
	11月	和楽器	・親しみのある曲を通じて 技術の向上を図る	曲想を把握し、表現を工夫 して完成度の高い演奏 ができる。
	12月		・コード・弾き語りを学ぶ。 ・和楽器の基本的な演奏方 法を学習する。	協力し合い、調和のとれた 曲に仕上げる。 日本の伝統音楽に関心を 持ち主体的に学ぶ。
冬季 休業				
三 学 期	1月	アンサンブル	ギター、打楽器さらに歌唱 なども加え、グループでアン サンブルをする。	また創作を加えると尚、良 い。
	2月	鑑賞	・ 様々な民族音楽を知る。 ・ プロの音楽を聴き、向上 心を図る。	・ 音楽的視野を広げる。 ・ 表現や技術の深さを知る。
	3月	歌唱	卒業式の歌	
春季 休業				

教科	芸術	科目	美術 I	履修学年	1年
単位数	2	科・系	全学科	担当者	

教科・科目の目標	<p>作品制作において、「感じ取ったことや考えたことなど」を基にした発想や構想ができるようになること。</p> <p>主題を自分なりに生成したり、美を追求する姿勢を高め、より豊かな創造力をはぐくむこと。</p>
使用教科書・教材等	<p>高校生の美術 1 日本文教出版</p>
評価の観点とその方法	<p>1 評価の方法</p> <p>上記の「教科・科目の目標」において個々の到達度を総合的に評価する。個々の作品の評価はもとより、授業で感じ取ったことや考えたことを「美術ノート」に毎時間記入して学びを深める。</p> <p>2 評価の観点</p> <p>「知識・技能」「思考・判断・表現」「学びに向かう姿勢」を総合的に評価する。</p>
学習方法・学習形態	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2クラスを音・美・書に分かれて同時展開授業。 ・ 主題を自分なりに生成したり、美を追求する姿勢を高め、より豊かな創造力をはぐくむ。 ・ 自分や他者の作品の良さや美しさが理解できるようにする。
留意点その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学びに向かう姿勢を重視する。

令和5年度学習進度予定表

期	月	学 習 項 目	学 習 内 容	到 達 目 標
一 学 期	4月	・美術で何を学ぶのか	高校美術で学ぶこと	「見る感じ取る考える表す」ことができるようになる。 色の知識や配色及びモダンテクニック等の技法を学ぶ。 社会をよくするための自分の考えをポスターにする。 *校内入選作品は、公募ポスターとして出品する。
	5月	・美術の技法や工夫	ポスターカラー、アクリル絵の具等を使ってみる。	
	6月	・作品制作1 (表現・鑑賞、デザイン)	「公募ポスター作品制作」 男女でつくる元気な和歌山、ヨット競技、愛鳥週間、国土緑化、暴力追放および、明るい選挙ポスター等からひとつ選択して制作する。	
	7月			
夏季休業		美術館へ行こう（鑑賞）		
二 学 期	9月	・作品制作2（表現・鑑賞）	「陶板レリーフ」制作 表札やネームプレートをデザインし、最終的にテラコッタに仕上げる。	粘土プレートを加工しレリーフ制作。テラコッタ（1,100度で窯焼き）作品にする。 陶芸作品に取り組む。 選んだ1冊の本を熟読できたか。 自分なりの感性で感想画にする アニメーションやメタモルフォーゼの仕組みを理解する
	10月	・作品制作3（表現・鑑賞）	「陶芸」の基礎知識を学ぶ 読書感想画中央コンクール 選んだ1冊の本を熟読し、自分なりの工夫や感性で感想画にしていく。	
	11月	・作品制作4	パラパラ漫画を作る	
	12月	(映像メディア表現・鑑賞)		
冬季休業		美術館へ行こう（鑑賞）		
三 学 期	1月	・作品制作5（表現・鑑賞）	凧の制作 空の造形といわれる「凧」の	凧の仕組みを理解する 実際に凧揚げをする
	2月		仕組みを学び制作する	
	3月			
春季休業		美術館へ行こう（鑑賞）		

教科	芸術	科目	書道 I	履修学年	1年
単位数	2	科・系	全学科	担当者	

教科・科目 の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・表現および鑑賞など書道の幅広い活動を通して書を愛好する心情を育てる。 ・書に親しむ活動を通して感性を豊かにし、自己を主体的に表現するための書道の基礎的な能力を伸ばしていく。 ・書的美しさを感じ取る鑑賞の基礎的な能力を育てる。
使用教科書 ・教材等	書 I 光村図書
評価の観点 と その方法	<p>1 評価の方法</p> <p>①授業時の観察で評価</p> <p>②提出物（作品 作品制作プリント 硬筆プリントなど）</p> <p>③学年末考査</p> <p>2 評価の観点</p> <p>①観察力</p> <p>②理解力</p> <p>③表現力</p>
学習方法・ 学習形態	<p>①古人の書（古典）を学習の対象にして、臨書する。 字形や用筆などを写實的に習う。 趣きや原理を汲み取る。</p> <p>②作品（古典 現代書等）を鑑賞する。</p> <p>③倣書する。</p> <p>④作品を創作する。</p>
留意点 その他	<p>小・中学校までの書写能力による差をつけないために、個人の学習に取り組む姿勢、練習量、意欲、作品等を個々に評価する。</p> <p>授業を通して生徒の心の健全をはかる。（用具、用材の使用、生徒の作品の生徒間の鑑賞会、教材の選択 等）</p>

令和5年度学習進度予定表

期	月	学 習 項 目	学 習 内 容	到 達 目 標
一 学 期	4月	1 書道の世界にふれる	書写と書道について 用具・用材の重要性 姿勢や執筆法の基本 書体の変遷を知る 臨書で表現の基礎を学ぶ 「孔子廟堂碑」 「九成宮醴泉銘」 「雁塔聖教序」 「顔氏家廟碑」 「牛橛造像記」 「鄭羲下碑」 (日本の楷書の古典) 「蘭亭序」 「風信帖」 (顔真卿の三稿) 「蜀素帖」	共通性と相違を理解すること 名称を知り、表現との関係を学ぶこと
	5月	2 漢字の書 ＜楷書＞		自らの鑑賞力を深めること 多様な表現を理解すること 基本的な点画や線質の表し方 用筆法 運筆法を学ぶこと
	6月	<行書>		起筆の形（露鋒 蔵鋒） と 字形（背勢 向勢）の理解
	7月			初唐の三大家の知識習得 「蜀素帖」
夏季休業				
二 学 期	9月	作品制作① (漢字の書) <草書 隸書 篆書>	「赤壁賦」 (日本の行書の古典) 「生きた言葉」を書で表現する 漢字と仮名の調和を考える 構成の変化を考える 習得した技法や感覚を活かして、木彫作品を制作する 手紙文等、日常生活に沿ったもの	「三筆」と「三跡」の知識習得
	10月	3 漢字仮名交じりの書 作品制作② (刻 字)		漢字と仮名の調和のとり方 達成感を味わうこと 作品を鑑賞し合って、生徒間の心の交流をはかること
	11月	4 硬筆		日常生活に取り入れる態度意欲を育てること
	12月			
冬季休業				
三 学 期	1月	作品制作③ (書き初め展)	作品を制作し、出品する	書道選択生、全員が出品すること
	2月	5 仮名の学習	仮名の基本から、連綿までを学び 日本独自の書の美に関心を持つ	小筆の用筆を習得すること 日常生活に取り入れる意欲を育てること
	3月	6 まとめ学習	書道史や書の伝統文化を学ぶことで、知の世界を豊かにする	学年末考査
春季休業				

